

[決算特別委員会（全体会）説明資料]

令和7年度

病院事業会計決算の概要

令和8年9月30日

島根県病院局

令和7年度 病院事業の概要

1 概況

病院事業は、平成19年4月に地方公営企業法の全部適用に移行し、新たに病院事業を所管する独立した組織として、病院事業管理者の下、病院局が設置された。

病院局の組織には、本局（県立病院課）、中央病院及びこころの医療センターを置き、病院運営にあたっては、「医療機能の充実と政策医療の推進」「地域医療への積極的な支援」及び「医療従事者の育成」を重点3項目として取り組むとともに、経営の健全化に努め、質の高い医療や政策医療等を効果的・安定的に提供し、県立病院としての役割と使命を果たすこととしている。

令和7年度における中央病院の経営状況については、医業収益の微増に加え、国の補助金の増加等により、総収益は前年度比3.2%の増となった。

一方、昨年度から引き続く物価高騰などによる材料費の増加に加え、人事委員会勧告に対応した給与費の大幅な増があったことなどにより総費用は前年度比4.0%の増となった。

この結果、経常損益、単年度資金収支とも昨年度に引き続き赤字となり、収支不足を補うため、運転資金として、新たに創設された病院事業債の借入を行った。

令和7年度におけるこころの医療センターの経営状況については、医業収益における入院収益の減で総収益は前年度比1.3%の減となった。

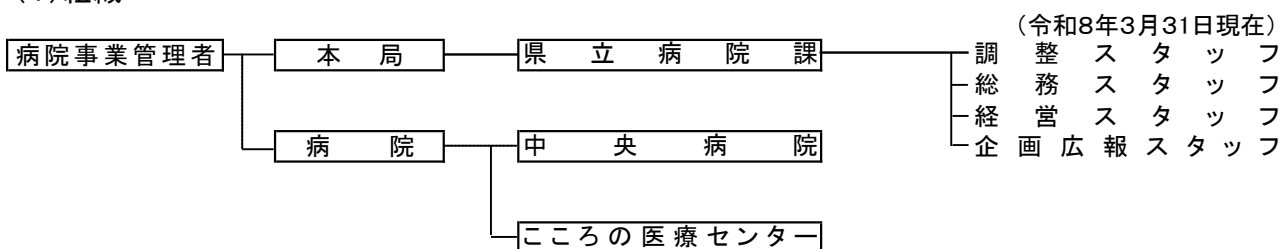
一方、人事委員会勧告に対応した給与費の増や人件費の高騰を背景とした委託料の増などにより総費用は前年度比1.2%の増となった。

この結果、経常損益、純損益、償却前損益は昨年度に引き続き赤字となり、単年度資金収支については前年度黒字だったものが赤字となった。

令和6年3月には、総務省からの要請に基づき、更なる経営強化のための取組を進め、県立病院として持続可能な地域医療を提供するための指針となる「島根県立病院経営強化プラン」を策定した。また、令和7年度取組も踏まえ、両病院において具体的な院内取組内容を示した「経営改善実行プラン2026」も策定した。これまでの取組の着実な継続と更なる診療報酬単価の増、経費の削減・圧縮、地域の医療機関との連携強化等に一層取り組むこと等、経営改善の取組を進めていく。

2 病院局本局

(1)組織



(2)職員の配置状況

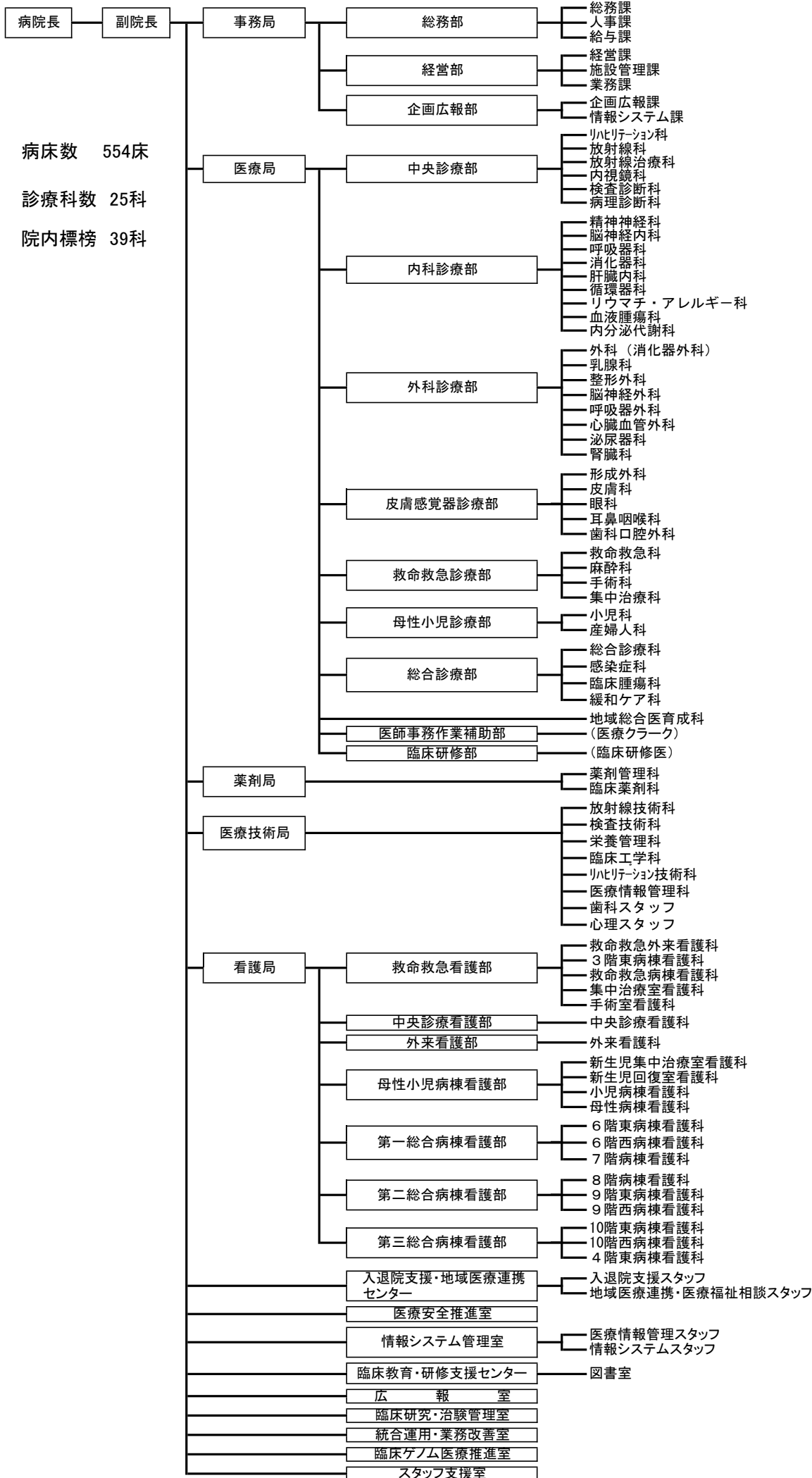
(令和8年3月31日現在)

(単位:人)

職種		令和7年度 現員A	令和6年度 現員B	増減 A-B
特別職	病院事業管理者	1	1	0
行政職	病院局長	1	1	0
	病院局次長	1	1	0
	県立病院課長	0	0	0
	病院事業管理者補佐	0	1	▲1
	管理監	1	1	0
	上席調整監	2	0	2
	調整監	1	2	▲1
	課長代理	1	1	0
	課長補佐	4	4	0
	主査	1	0	1
	主任	0	1	▲1
	主任主事	0	1	▲1
合 計		13	14	▲1

3 中央病院 (1) 組織

(令和8年3月31日現在)



(2) 職員の配置状況

(令和8年3月31日現在)

(単位：人)

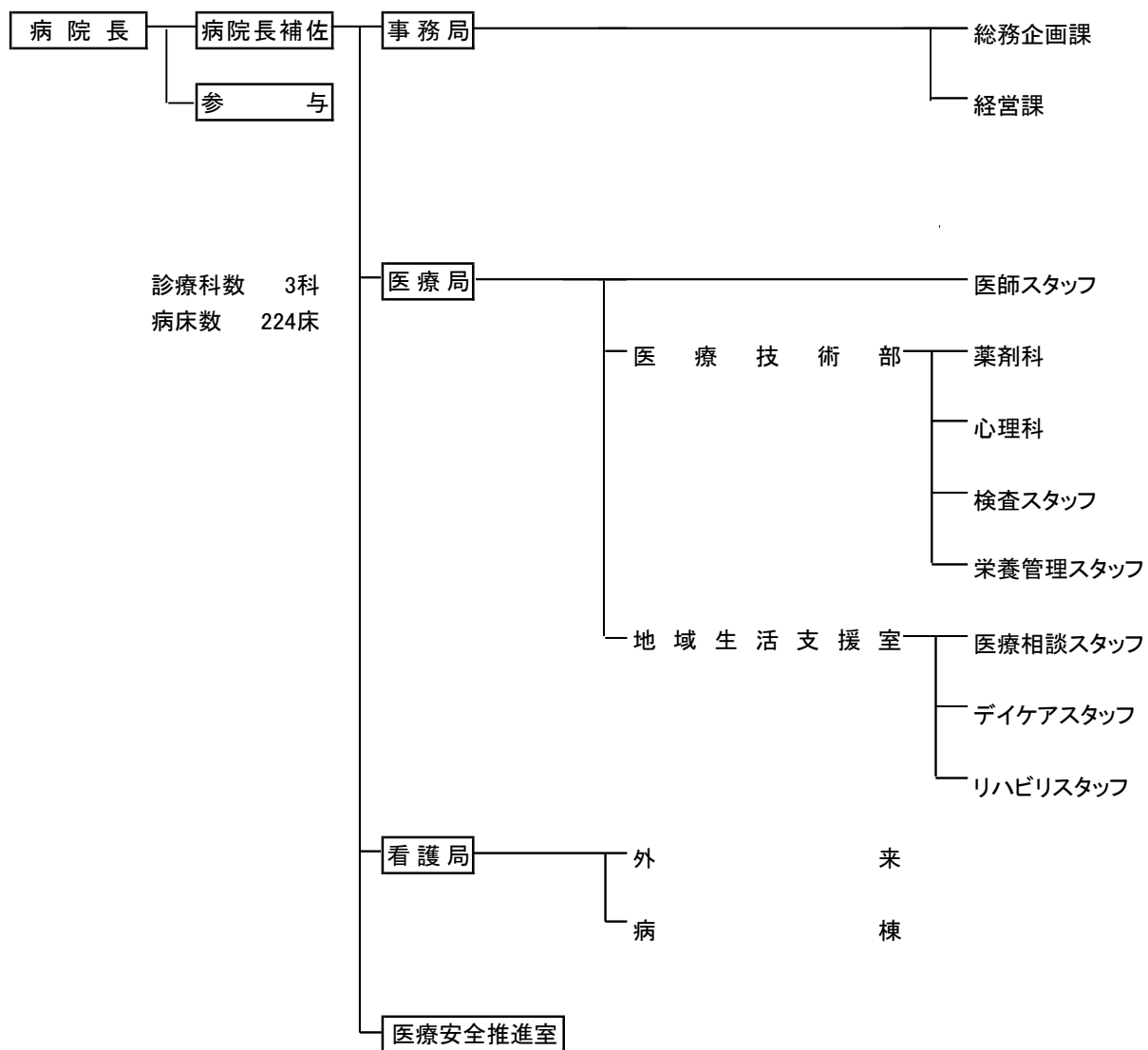
職 種		令和7年度現員			令和6年度現員			増 減		
		正規	会計 年度	計	正規	会計 年度	計	正規	会計 年度	計
医 師	病 院 長	1		1	1		1	0	0	0
	参 与 ・ 副 院 長	4		4	4		4	0	0	0
	医療局長・次長、薬剤局長、 医療技術局長	6		6	6		6	0	0	0
	部 長	38		38	38		38	0	0	0
	医 長	67		67	70		70	▲3	0	▲3
	医 員	25		25	21		21	4	0	4
	嘱 託 ・ 研 修 医 師	0	37	37	0	30	30	0	7	7
計		141	37	178	140	30	170	1	7	8
看 護 師	副 院 長 ・ 看 護 局 長 ・ 次 長	5		5	5		5	0	0	0
	看 護 部 長 ・ 師 長	28		28	28		28	0	0	0
	副 看 護 師 長	40		40	40		40	0	0	0
	看 護 師	544	46	590	535	47	582	9	▲1	8
	准 看 護 師	0	1	1	0	2	2	0	▲1	▲1
	助 産 師	42	5	47	43	4	47	▲1	1	0
計		659	52	711	651	53	704	8	▲1	7
医 療 技 術 職 員	薬 剤 師	38		38	36		36	2	0	2
	臨 床 検 査 技 師	47	5	52	45	5	50	2	0	2
	臨 床 工 学 技 士	24		24	23		23	1	0	1
	臨 床 心 理 士	4	1	5	4	1	5	0	0	0
	診 療 放 射 線 技 師	31		31	30		30	1	0	1
	理 学 療 法 士	22	2	24	19	3	22	3	▲1	2
	作 業 療 法 士	11	1	12	9	1	10	2	0	2
	言 語 聴 覚 士	6	1	7	6	1	7	0	0	0
	管 理 栄 養 士	13	3	16	14	3	17	▲1	0	▲1
	栄 養 士	3		3	3		3	0	0	0
	視 能 訓 練 士	3		3	3		3	0	0	0
	歯 科 衛 生 士	4	4	8	4	4	8	0	0	0
	診 療 情 報 管 理 士	11	1	12	11	1	12	0	0	0
	医 療 情 報 技 師	3		3	3		3	0	0	0
	社 会 福 祉 士	9	2	11	9	2	11	0	0	0
	遺 伝 カ ウ ン セ ラ ー	0	2	2		2	2	0	0	0
	救 急 救 命 士	0	2	2				0	2	2
	調 理 師	0	1	1				0	1	1
計		229	25	254	219	23	242	10	2	12
事 務 職 員	事務局長・次長・部長・調整監	0		0	1		1	▲1	0	▲1
	課 長	1		1	1		1	0	0	0
	主 幹 ・ 企 画 員 ・ 主 任 ・ 主 任 主 事 ・ 主 事 ・ 技 師	28		28	27		27	1	0	1
	事 務 員	0	131	131	0	122	122	0	9	9
計		29	131	160	29	122	151	0	9	9
技 能 労 務 職 員	医 療 技 術 員	0		0	0		0	0	0	0
	運 転 技 師	0		0	0		0	0	0	0
	調 理 師	0		0	0		0	0	0	0
	営 繕 技 術 員	0		0	0		0	0	0	0
	施 設 管 理 技 師	0		0	0		0	0	0	0
	看 護 助 手	0	51	51	0	48	48	0	3	3
計		0	51	51	0	48	48	0	3	3
合 計		1,058	296	1,354	1,039	276	1,315	19	20	39

注) 令和7年度現員、令和6年度現員とも病院局本局を本務とする職員は含まない。

4 こころの医療センター

(1) 組織

(令和8年3月31日現在)



(2) 職員の配置状況

(令和8年3月31日現在)

(単位：人)

職 種		令和7年度現員			令和6年度現員			増 減		
		正規	会計 年度	計	正規	会計 年度	計	正規	会計 年度	計
医 師	病 院 長	1		1	1		1	0	0	0
	副 院 長	0		0	0		0	0	0	0
	参 与	1		1	1		1	0	0	0
	病 院 長 補 佐	1		1	1		1	0	0	0
	医 療 局 長	1		1	1		1	0	0	0
	医 療 局 次 長	1		1	1		1	0	0	0
	医 療 技 術 部 長	0		0	1		1	▲ 1	0	▲ 1
	部 長	2		2	3		3	▲ 1	0	▲ 1
	医 長	3		3	2		2	1	0	1
	医 員	2		2	4		4	▲ 2	0	▲ 2
	嘱 託 ・ 研 修 医 師	0		0	0		0	0	0	0
計		12	0	12	15	0	15	▲ 3	0	▲ 3
看 護 師	看 護 局 長	1		1	1		1	0	0	0
	看 護 局 次 長	1		1	1		1	0	0	0
	看 護 師 長	7		7	7		7	0	0	0
	副 看 護 師 長	12		12	12		12	0	0	0
	看 護 師	110	16	126	108	16	124	2	0	2
	准 看 護 師	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		131	16	147	129	16	145	2	0	2
医 療 技 術 職 員	薬 剤 師 (うち、1名はR7～医療技術部長)	4		4	4		4	0	0	0
	臨 床 検 査 技 師	1	1	2	2	1	3	▲ 1	0	▲ 1
	作 業 療 法 士 (うち、1名はR7～地域生活支援室長)	5	3	8	4	3	7	1	0	1
	管 理 栄 養 士	2		2	2		2	0	0	0
	心 理 判 定 員	1		1	2		2	▲ 1	0	▲ 1
	臨 床 心 理 士	4	4	8	2	4	6	2	0	2
	病 歴 士 ・ 診 療 情 報 管 理 士	1	2	3	1	2	3	0	0	0
	精 神 保 健 福 祉 士	7	5	12	8	5	13	▲ 1	0	▲ 1
計		25	15	40	25	15	40	0	0	0
事 務 職 員	事 務 局 長	1		1	1		1	0	0	0
	調 整 監	0		0	0		0	0	0	0
	課 長 ・ 企 画 幹	2		2	2		2	0	0	0
	主 幹 ・ 企 画 員 ・ 主 任 ・ 主 任 主 事 ・ 主 事	7	13	20	7	13	20	0	0	0
計		10	13	23	10	13	23	0	0	0
技 能 労 務 職 員	医 療 技 術 員	0		0	0		0	0	0	0
	運 転 技 師	0		0	0		0	0	0	0
	調 理 師	0		0	0		0	0	0	0
	営 繕 技 術 員	0		0	0		0	0	0	0
	施 設 管 理 技 師	0		0	0		0	0	0	0
	看 護 助 手	0	10	10	0	11	11	0	▲ 1	▲ 1
計		0	10	10	0	11	11	0	▲ 1	▲ 1
合 計		178	54	232	179	55	234	▲ 1	▲ 1	▲ 2

令和7年度 病院事業会計決算の概要

I 中央病院

1 事業概要

- (1) 県内全域をエリアとした三次医療を担う基幹病院として、高度・特殊・専門医療の提供、政策医療の推進、地域医療への支援や医療従事者の育成などの役割を果たした。
- (2) 主な機能として高度救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、第二種感染症指定医療機関、地域周産期母子医療センターを運用し、また、ドクターヘリの基地病院として救命救急医療に取り組んだ。
- (3) 令和6年3月に島根県と締結した感染症に係る医療措置協定に基づき、新興感染症エリアを整備し、県から要請された感染症に対応する病床数の確保に努めた。
- (4) 経営改善実行プランに基づき、収入増・費用削減の取組を実施した。
- (5) 患者数等の状況（対前年度比較）
患者数は、入院、外来ともに減少したが、平均在院日数の短縮や高額薬剤を使用する患者の増加等により診療単価は増加した。

区分		令和7年度 A	令和6年度 B	増減 A－B
入院	患者数（人）	158,354	162,723	▲ 4,369
	うち新規入院患者数	12,615	12,722	▲ 107
	診療単価（円）	79,197	77,557	1,641
外来	患者数（人）	215,453	220,620	▲ 5,167
	うち救急患者数	16,616	17,243	▲ 627
	診療単価（円）	22,067	20,724	1,342

2 収益的収支

- (1) 収 益
 - ① 医業収益は、前年度比81百万円の増
 - 1) 入院収益：患者数の減により79百万円の減
 - 2) 外来収益：診療単価の増により182百万円の増
 - ② 医業外収益は、国庫補助金等の増により前年度比661百万円の増
 - ③ 総収益は、前年度比671百万円の増
- (2) 費 用
 - ① 医業費用は、前年度比926百万円の増
 - 1) 給与費：給与改定による増等により642百万円の増
 - 2) 材料費：薬品費の増等により372百万円の増
 - 3) 経 費：光熱水費の減等により44百万円の減
 - 4) 減価償却費：機械備品減価償却費の減等により72百万円の減
 - ② 医業外費用は、前年度比23百万円の減
 - ③ 総費用は、前年度比897百万円の増
- (3) 経常損益は、1,859百万円の損失計上となり、前年度比162百万円の減益
- (4) 純損益は、1,859百万円の損失計上となり、前年度比226百万円の減益

3 資本的収支

- (1) 収入は、企業債や企業債償還金に充当する一般会計負担金等で2,644百万円
- (2) 支出は、建設改良費と企業債償還金、長期借入金償還金で3,632百万円
- (3) 収支不足額988百万円は、過年度分損益勘定留保資金等により補填

4 単年度資金収支

償却前損益に資本的収支を反映した単年度資金収支は▲2,070百万円で、前年度比194百万円の減

5 比較貸借対照表

期末現金預金残高は506百万円で、前年度比340百万円の減

単年度資金収支が2,070百万円の赤字だが、年度末現金預金残高が340百万円の減少に留まるのは病院事業債（経営改善推進事業）を1,500百万円借り入れたことによる

【令和7年度中央病院決算状況】

(単位：百万円)

	【収益的収支】	R 7年度 A	R 6年度 B	比較増減 A－B	備 考（主なもの）
1	総 収 益	21,491	20,820	671	
2	医業収益	18,395	18,314	81	
3	入院収益	12,541	12,620	▲ 79	患者数▲4,369人、単価+1,641円／人
4	外来収益	4,754	4,572	182	患者数▲5,167人、単価+1,342円／人
5	その他医業収益	1,099	1,121	▲ 22	一般会計負担金▲48
6	医業外収益	3,094	2,433	661	医療機関等における賃上げ・物価上昇に対する支援+208、一般会計負担金+315
7	特別利益	1	72	▲ 71	過年度修正益▲71
8	総 費 用	23,349	22,452	897	
9	医業費用	21,999	21,072	926	
10	給与費	11,961	11,319	642	給料+289、手当+141、報酬+71
11	うち引当金	1,388	1,362	26	法定福利費+114、退職給付費▲29
12	材料費	5,089	4,717	372	薬品費+368
13	経費	3,623	3,667	▲ 44	光熱水費▲91
14	減価償却費	1,191	1,264	▲ 72	建物+11、器械備品▲82
15	その他医業費用	134	105	29	資産減耗費+34
16	医業外費用	1,349	1,372	▲ 23	控除対象外消費税+22 企業債償還利息▲28 退職手当一般会計負担金分▲37
17	特別損失	1	8	▲ 7	固定資産売却損▲7
18	経常損益	▲ 1,859	▲ 1,697	▲ 162	(2行目+6行目)－(9行目+16行目)
19	純 損 益	▲ 1,859	▲ 1,632	▲ 226	1行目－8行目
20	償却前損益	▲ 1,083	▲ 651	▲ 431	
21	企業債	1,500	0	1,500	経営改善推進事業
	【資本的収支】	R 7年度 A	R 6年度 B	比較増減 A－B	備 考（主なもの）
22	資本的収入	2,644	2,293	352	企業債1,385 (+633) 一般会計負担金1,256 (▲230) 新興感染症対応力強化施設・設備整備費補助金0 (▲44)
23	資本的支出	3,632	3,518	114	建設改良費1,368 (+551) 〔改良992 (+607)、資産購入376 (▲56)〕 企業債償還2,064 (▲337)、長期借入金償還200 (▲100)
24	資本的収支	▲ 988	▲ 1,225	238	22行目－23行目
	【単年度資金収支】	R 7年度 A	R 6年度 B	比較増減 A－B	備 考（主なもの）
25	単年度資金収支	▲ 2,070	▲ 1,876	▲ 194	20行目+24行目

注) 計数については、それぞれ四捨五入によっているため、合計等と一致しないものがある。

(単位：百万円)

	【比較貸借対照表】	期 末	期 首	比較増減	備 考（主なもの）
26	固定資産	20,997	20,932	65	資産の取得による増等
27	流動資産	3,561	3,813	▲ 251	
28	うち現金預金	506	846	▲ 340	
29	資産合計	24,558	24,744	▲ 186	
30	固定負債	11,823	10,833	989	企業債の増（+704） 退職給付金引当金の増（+286）
31	流動負債	5,662	5,386	277	未払金の増（+305）、賞与引当金の増（+55） 長期借入金の減（▲200）、企業債の増（+117）
32	繰延収益	7,779	7,372	406	長期前受金の増
33	負債合計	25,264	23,592	1,673	
34	資本金	1,761	1,761	0	
35	剰余金	▲ 2,467	▲ 608	▲ 1,859	当年度純損失による減
36	資本合計	▲ 706	1,153	▲ 1,859	
37	負債・資本合計	24,558	24,744	▲ 186	

注) 計数については、それぞれ四捨五入によっているため、合計等と一致しないものがある。

中央病院の経営改善の取組

1. 平成30年度以降の取組

- 平成25年度以降毎年度単年度資金収支の赤字が続き、一時は病院の運用現金の枯渇が見込まれる危機的な状況にあったことから、平成30年度には経営改善計画を策定、令和2年度以降は毎年度「経営改善実行プラン」を策定し、経営改善に向けて取組を進めてきた。
- 令和7年度における中央病院の経営状況については、医業収益の微増に加え、国の補助金の増加等により、総収益は前年度比3.2%の増となった。
一方、昨年度から引き続く物価高騰などによる材料費の増加に加え、人事委員会勧告に対応した給与費の大幅な増があったことなどにより総費用は前年度比4.0%の増となった。
この結果、経常損益、単年度資金収支とも昨年度に引き続き赤字となり、収支不足を補うため、運転資金として、新たに創設された病院事業債の借入を行った。
- なお、令和6年度から令和7年度にかけて、病床の削減を伴う病棟再編を実施した。（一般病床522床→520床、精神病床40床→28床）
(1)新興感染症拡大時、医療措置協定に基づく新興感染症エリア（受入可能病床）の整備
(2)精神病床の低い稼働率を踏まえ、スペースの有効活用を図るため、病床の個室化及び作業療法室の整備
- 持続可能な病院経営を確保するため、「経営改善実行プラン」に記載した取組を進め、病院一丸となって収支改善に取り組んで行く。

2. 収支改善

(1) 入院患者数の確保

	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 実績	R8年度 目標
1日あたり入院患者数（人）	439	446	434	455

- ・ 対外的な連携の取組（島根大学医学部附属病院との連携強化と役割分担、広報の推進、地域医師会との連携）
- ・ 予定入院患者の増（手術数増加への取組やベッドコントロールの適正化等）
- ・ 手術数の増加への取組（二次医療機関からの紹介患者の増加、医師会との連携等）
- ・ 経過観察入院の推進 ・ 周産期医療提供の充実 ・ 午前退院の促進
- ・ 高機能ドック利用促進のための取組実施 ・ 患者サービスの向上 など

(2) 診療報酬単価のさらなる向上

	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 実績	R8年度 目標
1人あたり入院単価（円）	76,218	77,557	79,197	84,000

- ・ 外来診療の適正化・効率化（逆紹介に係る定期フォロー実施等）
- ・ 病棟再編等によるスペースの有効活用 ・ ハイケアユニット病床の適正運用 など

(3) 人員確保・人材育成と働きやすい職場環境づくり

- ・ 中長期的な病院機能等を踏まえた医師の確保
- ・ 病院機能維持向上のためのメディカルスタッフの確保・育成
- ・ 病院経営に携わる人材の育成 ・ 働きやすい職場環境づくり（働き方改革の実施）
- ・ 業務の効率化（ICT、RPA等の活用） など

(4) 予防医療の推進

- ・ 高機能ドック利用促進のための取組実施
- ・ 市民公開講座（出前講座）の開催 など

(5) 意識改革の徹底

- ・ 管理者及び院長による各診療科等ヒアリングの実施
- ・ 経営状況や経営改善計画・経営分析の共有
- ・ 部署ごとの目標の設定 など

3. 令和8年度の経営状況

区分		R6. 8月末迄	R7. 8月末迄 A	R8. 8月末迄 B	増減 B - A	増減率 B / A
入院	患者数（人）	69,163	66,778	61,337	▲ 5,441	91.9%
	うち新規入院患者数	5,562	5,373	5,239	▲ 134	97.5%
	平均在院日数（日）	11.7	11.5	10.6	▲ 0.9	92.2%
	診療単価（円）	77,062	79,123	85,276	6,153	107.8%
	入院収益（百万円）	5,330	5,284	5,231	▲ 53	99.0%
外来	患者数（人）	94,204	91,845	88,777	▲ 3,068	96.7%
	診療単価（円）	20,567	21,413	22,421	1,008	104.7%
	外来収益（百万円）	1,937	1,967	1,990	23	101.2%

※計数については、それぞれ四捨五入によっているため、合計等と一致しないものがある。

Ⅱ こころの医療センター

1 事業概要

- (1) 県の精神医療の基幹的病院として精神科救急・急性期医療や児童・思春期の精神疾患治療など医療の提供に取り組んだ。
- (2) 平成29年10月から指定を受けている医療観察法指定入院医療機関の運営により司法精神医療の提供に取り組んだ。
- (3) 患者数等の状況（前年度比較）

入院については診療単価は微減、患者数も減となり、外来については診療単価・患者数ともに増となった。

区分		令和7年度 A	令和6年度 B	増減 A－B
入院	患者数（人）	50,311	54,075	▲ 3,764
	うち新規入院患者数	317	334	▲ 17
	診療単価（円）	23,506	23,672	▲ 166
外来	患者数（人）	25,736	25,031	705
	うち救急患者数	157	129	28
	診療単価（円）	7,677	7,577	100

2 収益的収支

(1) 収 益

- ① 医業収益は、前年度比83百万円の減
 - 1) 入院収益：診療単価は微減となり、患者数も減少したため94百万円の減
 - 2) 外来収益：診療単価は上昇し、患者数も増加したため8百万円の増
- ② 医業外収益は、国庫補助金等の増により前年度比42百万円の増
- ③ 総収益は、前年度比35百万円の減

(2) 費 用

- ① 医業費用は、前年度比49百万円の増
 - 1) 給 与 費：給与改定による増等により43百万円の増
 - 2) 材 料 費：薬品費の減と診療材料費の増により前年度並み
 - 3) 経 費：委託料の増等により8百万円の増
 - ② 医業外費用は、退職手当一般会計負担金の減等により前年度比14百万円の減
 - ③ 総費用は、前年度比34百万円の増
- (3) 経常損益は、417百万円の損失計上となり、前年度比76百万円の減益
 - (4) 純損益は、303百万円の損失計上となり、前年度比70百万円の減益

3 資本的収支

- (1) 収入は、企業債や企業債償還金に充当する一般会計負担金に加え、中央病院からの貸付金返還金200百万円等で475百万円
- (2) 支出は、企業債償還金と建設改良費で305百万円
- (3) 収支は170百万円の黒字

4 単年度資金収支

償却前損益に資本的収支を反映した単年度資金収支は▲154百万円で、前年度比195百万円の減

5 比較貸借対照表

期末現金預金残高は251百万円で、前年度比157百万円の減

【令和7年度こころの医療センター決算状況】

(単位：百万円)

	【収益的収支】	R 7 年度 A	R 6 年度 B	比較増減 A－B	備 考（主なもの）
1	総 収 益	2,630	2,665	▲ 35	
2	医業収益	1,447	1,530	▲ 83	
3	入院収益	1,183	1,277	▲ 94	患者数▲3,764人（▲7.0%）、単価▲166円/人（▲0.7%）
4	外来収益	198	190	8	患者数+705人（+2.8%）、単価 +100円/人（+1.3%）
5	その他医業収益	67	64	3	
6	医業外収益	1,068	1,026	42	医療機関等における賃上げ・物価上昇に対する支援+49、生産性向上・職場環境等支援事業給付金+9、退職手当一般会計負担金▲10、企業債利息負担金▲4
7	特別利益	114	108	6	過年度減価償却のうち一般会計負担金等見合分
8	総 費 用	2,932	2,898	34	
9	医業費用	2,743	2,694	49	
10	給与費	1,885	1,842	43	給料+30、手当+10、賞与引当金繰入（正・会）+1、報酬+6、法定福利費+12、退職給付費▲15
11	うち、引当金	216	232	▲ 16	
12	材料費	107	107	0	
13	経費	573	565	8	P F I サービス購入費（物価スライド）+3、給食調理業務委託+3、医事業務委託+2
14	減価償却費	164	165	▲ 1	
15	その他医業費用	14	15	▲ 1	
16	医業外費用	190	204	▲ 14	退職手当一般会計負担金支出▲10
17	特別損失	0	0	0	
18	経常損益	▲ 417	▲ 341	▲ 76	(2行目+6行目)－(9行目+16行目)
19	純 損 益	▲ 303	▲ 233	▲ 70	1行目－8行目
20	償却前損益	▲ 323	▲ 229	▲ 94	

	【資本的収支】	R 7 年度 A	R 6 年度 B	比較増減 A－B	備 考（主なもの）
21	資本的収入	475	608	▲ 133	中央病院からの貸付金返還金▲100（R7年度:200←R6年度:300）
22	資本的支出	305	338	▲ 33	施設整備▲45、器械備品+7、企業債償還金+5
23	資本的収支	170	270	▲ 100	21行目－22行目
	【単年度資金収支】	R 7 年度 A	R 6 年度 B	比較増減 A－B	備 考（主なもの）
24	単年度資金収支	▲ 154	41	▲ 195	20行目+23行目

注) 計数については、それぞれ四捨五入によっているため、合計等と一致しないものがある。

(単位：百万円)

	【比較貸借対照表】	期 末	期 首	比較増減	備 考（主なもの）
25	固定資産	3,300	3,431	▲ 131	減価償却による減等
26	流動資産	520	899	▲ 379	貸付金の減（▲200）等
27	うち現金預金	251	408	▲ 157	
28	資産合計	3,820	4,330	▲ 510	
29	固定負債	3,773	3,943	▲ 170	企業債の減
30	流動負債	642	674	▲ 32	未払金の減
31	繰延収益	155	160	▲ 5	
32	負債合計	4,570	4,777	▲ 207	
33	資本金	84	84	0	
34	剰余金	▲ 834	▲ 531	▲ 303	
35	資本合計	▲ 750	▲ 447	▲ 303	
36	負債・資本合計	3,820	4,330	▲ 510	

注) 計数については、それぞれ四捨五入によっているため、合計等と一致しないものがある。

1. 経営状況と改善に向けた取組

- 令和7年度は、経常収益については医業収益の減で対前年度比1.6%の減となり、経常費用については給与費の増等で対前年度比1.2%の増となったことにより、経常損益が5年連続の赤字となった。
- 一方で、資本的収支は中央病院からの貸付金返還収入2億円の影響により約1億7千万円の黒字となり、これにより単年度資金収支は約1億5千4百万円の赤字となった。
- 病院の経営環境は厳しさを増す中、今後も持続可能な地域医療提供体制を確保することを目的として、「経営改善実行プラン 2026」等の計画を基に、病院全体で経営改善に取り組んでいく。

2. 収支改善

(1) 意識改革の徹底

経営改善の取組の定着化を図るため、全職員が経営危機の現状について可視化して認識の共有化を図り、病院長が陣頭に立って、不断の改革に取り組んで行く

- ・ 経営状況説明会の適時開催
- ・ 経営情報の定期的な院内発信 など

(2) 収入の増加に向けた取組

- ・ 入院患者の増加に向けた外来診療体制の見直し
- ・ 児童思春期部門の充実・強化
- ・ 患者の年齢・疾病構成、通院ニーズの現状に即した医療提供体制等の見直し
- ・ 開業医等への積極的なアプローチ など

(3) 支出の削減に向けた取組

- ・ 業務効率化による時間外勤務の縮減
- ・ 光熱水費の削減
- ・ 委託料の見直し
- ・ 診療体制の見直し（病床数の見直し・診療体制の最適化） など

(4) 人員確保・人材育成と働きやすい職場環境づくり

- ・ 多層的な人員確保策（島根大学医学部との連携強化、研修医・専攻医の獲得などによる人員の確保）
- ・ ブランド力の強化（積極的な広報や診療実績の公表等を通じて県内における精神科の基幹的な病院としてのブランド力強化による人員確保） など

(5) その他

- ・ 外部コンサルタントの活用（患者数増加、診療単価アップ、病床数の在り方の検討に当たって必要に応じた外部の視点の取り入れ） など

3. 令和8年度の経営状況

区分		R6. 8月末迄	R7. 8月末迄 A	R8. 8月末迄 B	増減 B - A	増減率 B / A
入院	患者数（人）	22,509	21,461	19,923	▲ 1,538	92.8%
	うち新規入院患者数	138	150	156	6	104.0%
	平均在院日数（日）	164.3	148.0	129.8	▲ 18.2	87.7%
	診療単価（円）	23,206	23,397	24,929	1,532	106.5%
	入院収益（百万円）	524	504	499	▲ 5	99.0%
外来	患者数（人）	10,413	10,456	10,893	437	104.2%
	診療単価（円）	7,648	7,613	7,811	198	102.6%
	外来収益（百万円）	82	82	88	6	107.3%

※計数についてはそれぞれ四捨五入によっているため、合計等と一致しないものがある。

2. 資金不足比率

地方公共団体の財政の健全化に関する法律（平成19年法律第94号）第22条第1項に規定する資金不足比率について、病院事業会計では令和7年度決算において資金不足が生じていないため、該当ありません。

(1) 公営企業の資金不足比率の算出方法

$$\text{資金不足比率} = \frac{\text{資金不足額}}{\text{事業規模}}$$

- ・ 資金不足額 = (流動負債－控除企業債等－PFI建設事業費等) + 建設改良費等以外の経費の財源に充てるために起こした地方債の現在高－(流動資産－控除財源)－解消可能資金不足額
- ・ 事業の規模 = 営業収益の額－受託工事収益の額

(2) 病院事業会計の資金不足比率の算出

① 資金不足比率 (単位：千円)

区分	資金不足額 E	事業の規模 F	資金不足比率 E/F
病院事業会計	▲ 199,855	19,753,545	－%
中央病院	▲ 57,157	18,332,556	－%
こころの医療センター	▲ 142,698	1,420,989	－%

② 資金不足額 (単位：千円)

区分	A=a-b			建設改良費等以外の経費の財源に充てるために起こした地方債の現在高 B	C=c-d			解消可能資金不足額 D	資金不足額 E = A + B - C - D
		流動負債 a	控除企業債等 b			流動資産 c	控除財源 d		
病院事業会計	3,856,729	6,304,962	2,448,233	1,500,000	4,056,584	4,081,154	24,570	1,500,000	▲ 199,855
中央病院	3,479,598	5,662,496	2,182,897	1,500,000	3,536,755	3,561,325	24,570	1,500,000	▲ 57,157
こころの医療センター	377,131	642,466	265,335	0	519,829	519,829	0	0	▲ 142,698

- ・ 資金不足額が負の数の場合は、資金剰余額を示す。

(3) 参考

資金不足比率が経営健全化基準である20%を超過すると、経営健全化計画の策定が必要となる。